

第2回
新型コロナウイルス禍が及ぼす影響について
アンケート結果報告

公益財団法人 広島県男女共同参画財団

はじめに

広島県の男女共同参画社会づくりの拠点「エソール広島」は昨年につき、県内在住者及び通勤・通学者を対象とし、「第2回新型コロナウイルス禍が及ぼす影響についてアンケート」を実施した。

調査内容は、県民のコロナ禍における生活や就業、困り事及びエソール広島の活動・提供サービスに関する要望に関するものであり、設問毎に自由記述欄を設けた。調査期間は、令和3(2021)年4月1日～5月10日、WEBで実施し、回答者総数は540人であった。

回答結果は、家族の形や生活様式、価値観が大きく変わる社会状況の中で、新型コロナウイルスの感染拡大が与えた影響も多様で多元的である現状を映し出していた。本報告では先ず回答者全体について、コロナ禍が及ぼした影響とエソール広島のサービスに対する要望の分析を行い、その上で回答者の「自認する性別」の内、男女の違いに焦点を置き、コロナ禍による影響をジェンダーの視点から分析していく。

全体の回答結果を先取りの要約すると、浮き彫りになったのは、回答を寄せた人の家族形態や就業形態、生活スタイルが多様化している現実であり、従ってコロナ禍が経済面や日常生活、心身の健康状態に及ぼした影響も多様で、多元的な性格を持つ事実であった。そしてこうした変化は、エソール広島が今後取り組むべき活動やサービスとして何を期待するかという要望の変化にもつながっていた。

以下、そうした点を具体的にアンケート数値や自由記述により分析していく。

目 次

－全回答者（540人）について－

1	多様化する県民の家族と暮らし		
	(1) アンケート回答者の社会的属性		
	ア 回答者の年代と自認する性別	1
	イ 回答者の家族形態	2
	ウ 回答者の就業形態	3
	(2) コロナ禍が及ぼした働き方と収入への影響		
	ア コロナ禍が及ぼした働き方への影響	5
	イ コロナ禍が及ぼした収入面での変化	6
	(3) コロナ禍が及ぼした生活や行動，暮らし方への影響	7
	(4) コロナ禍がもたらした心身両面の変化	9
	(5) エソール広島の活動・提供サービスへの要望	11
2	「自認する性別」によるコロナ禍の影響		
	－男性と女性で影響はどう異なるか－		
	(1) 回答者年代	12
	(2) 回答者の家族形態	12
	(3) 就業状況	13
	(4) 性別によるコロナ禍の影響	14
	(5) コロナ禍がもたらした収入への影響	15
	(6) コロナ禍が及ぼした生活や行動，暮らし方への影響	16
	(7) コロナ禍がもたらした心身両面の変化	17
	(8) エソール広島の活動・提供サービスへの要望	19
	付表	23

1 多様化する県民の家族と暮らし

(1) アンケート回答者の社会的属性

ア 回答者の年代と自認する性別

【表1 「年代と自認する性別」】

〈全体〉

年齢区分	回答者数	割合	内 訳			
			女性 ①	男性 ②	(その他) ③	(答えたくない) ③
総数	540 人		399 人 (73.9%)	133 人 (24.6%)	5 人 (0.9%)	3 人 (0.6%)
10代	34 人	6.3%	30 人	4 人	0 人	0 人
20代	55 人	10.2%	39 人	12 人	4 人	0 人
30代	71 人	13.1%	51 人	20 人	0 人	0 人
40代	147 人	27.2%	101 人	42 人	1 人	3 人
50代	126 人	23.3%	90 人	36 人	0 人	0 人
60代	64 人	11.9%	50 人	14 人	0 人	0 人
70代以上	43 人	8.0%	38 人	5 人	0 人	0 人

〈内訳〉①女性

年齢区分	回答者数	割合
10代	30 人	7.5%
20代	39 人	9.8%
30代	51 人	12.8%
40代	101 人	25.3%
50代	90 人	22.6%
60代	50 人	12.5%
70代以上	38 人	9.5%

②男性

年齢区分	回答者数	割合
10代	4 人	3.0%
20代	12 人	9.0%
30代	20 人	15.0%
40代	42 人	31.6%
50代	36 人	27.1%
60代	14 人	10.5%
70代以上	5 人	3.8%

③その他・答えたくない

年齢区分	回答者数	割合
10代	0人	0.0%
20代	4人	50.0%
30代	0人	0.0%
40代	4人	50.0%
50代	0人	0.0%
60代	0人	0.0%
70代以上	0人	0.0%

回答者の「年齢」は10代から70代以上の多世代に及んでいた。最も多いのは40～50代で合計50.6%半数を占める。次いで20～30代23.3%，60代以上19.8%，10代6.3%である。

次に、回答者が「自認する性別」は女性73.9%，男性24.6%で女性が男性の3倍を占める。だが、注目すべきは男女どちらの性でもなく「その他」「答えたくない」という形でLGBTとしての性自認を持つ人が少数ながら含まれる点である。性別についての設問が「男性」「女性」「その他」「答えたくない」としたエソール広島実施の調査だったからこそ把握できた事実と言えよう。

イ 回答者の家族形態

【表2「家族形態」】

〈全体〉

区分	回答者数	割合
総数	540人	
ひとり暮らし	108人	20.0%
夫婦(パートナー)のみ	114人	21.1%
夫婦(パートナー)と子ども	178人	33.0%
ひとり親と子ども	30人	5.6%
三世代	32人	5.9%
その他	78人	14.4%

回答者の家族形態も多様であった。「夫婦(パートナー)と子ども」33.0%が最も多く、次いで「夫婦のみ」21.1%、「ひとり暮らし」20.0%がほぼ同じ割合を占める。さらに「ひとり親と子ども」「三世代」がそれぞれ5%台である。

回答者に30～50代が63.7%を占めるので、年代的に「夫婦と子ども」の家族形態がもっと多いことを予測したがそれは3割台に過ぎなかった。この年代でも家族の多様化が進む日本の社会変化が回答にも反映されているのかもしれない。

ウ 回答者の就業形態

【表3「就業形態」】

〈全体〉

区 分	回答者数	割 合	内 訳			
			女性 ①	男性 ②	(その他) ③	(答えたくない) ③
総数	540人		399人	133人	5人	3人
正社員	228人	42.2%	135人	91人	1人	1人
契約・派遣社員・非常勤職員	50人	9.3%	43人	5人	1人	1人
パート・アルバイト	51人	9.4%	48人	3人	0人	0人
自営・フリーランス	64人	11.9%	47人	17人	0人	0人
専業主婦	39人	7.2%	38人	0人	0人	1人
学生	50人	9.3%	41人	6人	3人	0人
無職	40人	7.4%	31人	9人	0人	0人
その他	18人	3.3%	16人	2人	0人	0人

〈内訳〉①女性

区 分	回答者数	割 合
正社員	135人	33.8%
契約・派遣社員・非常勤職員	43人	10.8%
パート・アルバイト	48人	12.0%
自営・フリーランス	47人	11.8%
専業主婦	38人	9.5%
学生	41人	10.3%
無職	31人	7.8%
その他	16人	4.0%

②男性

区 分	回答者数	割 合
正社員	91人	68.4%
契約・派遣社員・非常勤職員	5人	3.8%
パート・アルバイト	3人	2.3%
自営・フリーランス	17人	12.8%
専業主婦	0人	0.0%
学生	6人	4.5%
無職	9人	6.8%
その他	2人	1.5%

③その他・答えたくない

区 分	回答者数	割 合
正社員	2人	25.0%
契約・派遣社員・非常勤職員	2人	25.0%
パート・アルバイト	0人	0.0%
自営・フリーランス	0人	0.0%
専業主婦	1人	12.5%
学生	3人	37.5%
無職	0人	0.0%
その他	0人	0.0%

就業形態でも正規雇用者が多かったかつての時代と比べ、多様化している事実が示される。最も多いのは「正社員」42.2%である。しかしその割合は半数に満たない。「契約・派遣社員」「パート・アルバイト」「自営・フリーランス」「学生」がそれぞれほぼ1割である。就業形態における多様化、さらに回答者の年代としては30～50代の女性を多く含みながら「専業主婦」が7.2%と1割以下に過ぎなかった事実は注目すべきである。

そして、女性が回答者総数の7割強を占める事実から勘案すると、ライフコースと雇用形態の多様化は、性別で見た場合、男性より女性の方でより強いと考えられる。雇用形態において「正社員」割合は男性68.4%、女性33.8%で女性の方がはるかに少なく、女性が不安定な雇用環境におかれる現状を示す。

そうした就業形態の変化は、コロナ禍がもたらした働き方や収入の変化とどう関わっているか。次にそれを見ていこう。

(2) コロナ禍が及ぼした働き方と収入への影響

ア コロナ禍が及ぼした働き方への影響

【表4 「コロナ禍の影響であなたの働き方は変わりましたか」】

項目	回答者数	割合
総数	435人	
在宅で仕事をするようになった	62人	14.3%
出勤する日数が減った	68人	15.6%
会社の都合で仕事を休んでいる	14人	3.2%
時差出勤になった	24人	5.5%
短時間勤務になった	20人	4.6%
自己都合で仕事を休んでいる	3人	0.7%
残業や休日出勤が増えた	33人	7.6%
自己都合で仕事を辞めた	8人	1.8%
解雇された（派遣切りを含む）	7人	1.6%
特に変わりはない	277人	63.7%

まず、コロナ禍が及ぼした働き方の変化について見ていく。回答者の年代、性自認、就業形態が多様化する中、コロナ禍が及ぼした働き方への影響も多元的である。

「特に変わりはない」が63.7%と最も多いものの、残りの4割弱は働き方に何らかの変更を迫られている。そして、その影響は働き方がコロナ禍以前と変わらなかった人、勤務形態や勤務日・勤務時間の変更にとどまる人、より深刻な休業、解雇までに至った人、一方ではコロナ禍以前より勤務時間が増え激務になった人という形で、コロナ禍が与えた影響には大きな幅がある。

具体的に述べると、勤務形態の在宅ワーク化を示す「在宅で仕事をする」が14.3%、さらに勤務日や勤務時間の変更に関わる「出勤日数が減った」15.6%、「時差出勤になった」5.5%、「短時間勤務になった」4.6%が合計25.7%を占める。「会社の都合で仕事を休む」3.2%、「自己都合で仕事を休む」0.7%と休業状態になった人、さらに少数ながら「自己都合で仕事を辞めた」1.8%、「解雇された」1.6%、より深刻な影響を受けた人もいる。一方、そうした方向とは逆に「残業や休日出勤が増えた」7.6%と仕事が激務化した人もいる。

そうしたコロナ禍が及ぼした働き方への影響の多様性は、以下の自由記述によりさらに詳細に知ることができる。

自由記述（年代の若い順に記載）

- ・仕事が減った。(20代・男性)
- ・一時は在宅勤務があったが、それ以降は特に変わりはない。(30代・女性)
- ・マスクを強要される。(30代・男性)
- ・会社でコロナ対策と言う名の人権侵害を受けるようになった。(30代・男性)
- ・自宅兼事務所のため昼の働き方に変わりはないが、夜に行われる外部との会議やセミナーはオンラインになり懇親会がなくなった。(40代・女性)
- ・転職した。(40代・女性)
- ・コロナ対応で忙しくなり、サービス残業が増えた。(40代・男性)
- ・車通勤になった。(40代・男性)
- ・コロナ禍対応で業務量が増えより激務になった。(40代・男性)
- ・コロナ感染状況に応じて、出勤停止、時間短縮など仕事日数が減った。(50代・女性)
- ・客先への訪問が減った。(50代・女性)
- ・お客様の来店数が減った。(50代・女性)
- ・リモートの仕事が増えた。(50代・女性)
- ・自宅で仕事をする時間が多かったので大きな変化はないが、仕事の打合せ等で遠方に出かけにくくなったので困っている。(50代・女性)
- ・在宅勤務時の残業が認められにくく申請時間が減った。(50代・女性)
- ・イライラする職員が増えている。(60代・女性)
- ・残業、休日出勤が減った。(60代・女性)
- ・Zoomなど新しいツールを使うようになった。(60代・女性)
- ・テレワークできない仕事で感染予防に万全の対策が必要。(70代以上・男性)

イ コロナ禍が及ぼした収入面での変化

【表5 「収入面での影響はいかがですか」】

項目	回答者数	割合
総数	435人	
なくなりそう・なくなった	18人	4.1%
減りそう・減った	141人	32.4%
変わらない	251人	57.7%
増えた・増えそう	25人	5.7%

コロナ禍は働き方に大きな影響を及ぼしたが、それは収入の変化にどうつながっているのか。設問への回答者435人について見ると、「変わらない」が57.7%と最も多い。しかし、「なくなりそう・なくなった」が4.1%、「減りそう・減った」が32.4%で、両者を合計すると収入減というマイナスの影響を受けた人が4割近くいる。コロナ禍が与えた経済的影響は大きい。

(3) コロナ禍が及ぼした生活や行動、暮らし方への影響

【表6 「コロナ禍から1年、あなたの生活や行動に変化がありましたか」】

項目	回答者数	割合
総数	528人	
友達に会えなくなった	377人	71.4%
やりたいことができなくなった	308人	58.3%
運動不足になった	208人	39.4%
食事の支度や掃除など家事の負担が増えた	77人	14.6%
公共交通機関を利用しなくなった	130人	24.6%
学校が休みになり、子どもの世話が増えた	46人	8.7%
生活のリズムが不規則になった	75人	14.2%
子どもを叱ることが増えた	17人	3.2%
些細なことでパートナーと喧嘩するようになった	34人	6.4%
パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった(悪化した)	8人	1.5%
特に変化したことはない	41人	7.8%

コロナ禍は働き方や収入面での変化をもたらしただけでなく、日常生活や行動面も大きく変えていった。特に生活や行動への変化は、感染防止のため「密な社会関係を持つことが制限されたことの影響が大きい。回答結果では、「友達に会えなくなった」71.4%が最も多く、次いで「やりたいことができなくなった」58.3%、「公共交通機関を利用しなくなった」24.6%と続く。さらに、そうした行動面での変化は「運動不足になった」39.4%、「生活のリズムが不規則になった」14.2%とも関わっている。

一方で、密な社会関係を控え「巣ごもり」を強いられることの影響は家庭生活にも及び、「食事の支度や掃除など家族の負担が増えた」14.6%、「学校が休みになり子どもの世話が増えた」8.7%という形での家事役割負担、さらには「子どもを叱ることが増えた」3.2%、「パートナーと喧嘩するようになった」6.4%、「パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった(悪化した)」1.5%と家族員間の葛藤の増大や家族内弱者への暴力などの深刻な状況をも生んでいる。

こうした回答者の働き方、コロナ禍による経済的影響も多様化する中、コロナ禍で生じた家族関係の変化を含む日常生活や行動変化の詳細は、自由記述欄の記載からよりリアルに知ることができる。年代により、家族形態により、就業状態の違い等々、コロナ禍で被った影響が回答者それぞれの境遇により多様でマイナスの方向だけでもない事実を以下の自由記述が示す。

自由記述（年代が若い順から記載）

《マイナス方向での記述》

- ・大学進学できるエリアが狭まった。(10代・女性)
- ・生きる目的がない。(30代・女性)
- ・父親と二人暮らしだが、父親が休みの日に口論が増えるようになった。(30代・女性)
- ・貯蓄も収入も減り、お金を使わないようにしている。(40代・女性)
- ・帰省ができない。飲みに行けない。(40代・女性)
- ・子どものお稽古事をやめた。(40代・女性)
- ・家で過ごすことが多くなった。(40代・女性)
- ・県外にいる大学生の子どもが鬱気味だ。(40代・女性)
- ・仕事以外で外出する機会が減った。(40代・女性)
- ・収入が無くなったので、借入せざるを得なくなった。(40代・女性)
- ・医療従事者のため、COVID-19 感染予防対応で仕事量が増えた。(40代・男性)
- ・過剰反応する人が増えた、誹謗中傷もある、行政はコロナ対応もあるが人権への取り組みはしないのか。(40代・男性)
- ・専業主婦から外に働きに行くようになった。(50代・女性)
- ・旅行、会食ができずストレスになる。(50代・女性)
- ・パートナーが鬱になった。(50代・女性)
- ・お店に入る時に消毒の有無が気になるようになった。(50代・女性)
- ・家族・親族の交流機会が減り、県外在住の息子と1年以上会ってない。(50代・女性)
- ・介護施設に入所している父と会えない。(50代・女性)
- ・夫の失業。(50代・女性)
- ・昨年2月を最後に趣味の旅行を自粛している。(50代・男性)
- ・高齢の親の介護のため、親とほぼ同居状態。(60代・女性)
- ・運動不足から身体機能がガタ落ちになってしまった。(70代以上・女性)

《プラス方向での記述》

- ・家族や友人との関係や暮らしを見直す機会になった。食事を味わったり、大量消費廃棄を前提とした暮らしを見直す良い機会になった。(30代・女性)
- ・心穏やかに豊かな気持ちで過ごせている。(40代・女性)
- ・オンラインで学び始めた。(40代・女性)
- ・夫が在宅勤務になり家事をしてくれるようになったので、楽になった。(40代・女性)
- ・夜の会食が減ったので、自分の時間が増えた。(50代・女性)

(4) コロナ禍がもたらした心身両面の変化

【表7 「コロナ禍から1年が経過し、あなたの心身に変化がありましたか」】

項目	回答者数	割合
総数	497人	
気持ちが沈んでいる	157人	31.6%
イライラしやすくなった	125人	25.2%
新型コロナウイルスのニュースを見るのがこわい	81人	16.3%
新型コロナウイルスのニュースを一日中見てしまう	91人	18.3%
眠れなくなった・眠りが浅くなった	58人	11.7%
仕事や勉強に集中できなくなった	39人	7.8%
仕事に行きたくない	53人	10.7%
人に会いたくない	78人	15.7%
食欲がなくなった	14人	2.8%
特に変化したことはない	181人	36.4%

働き方や収入面の変化、日常生活の変化は心身両面の健康にも大きく影響する。「特に変化したことがない」割合は36.4%に過ぎず、回答者の6割以上が心身面で何らかの変化をコロナ禍の中で体験している。

最も多いのは「気持ちが沈んでいる」31.6%、次いで「イライラしやすくなった」25.2%である。「新型コロナウイルスのニュースを見るのが怖い」16.3%と「新型コロナウイルスのニュースを一日中見てしまう」18.3%を合計すると34.6%を占め、連日連夜報道される新型コロナに関するニュースに過敏になったという人が3人に1人を占める。

さらにより深刻な状態といえる「眠れなくなった、眠りが浅くなった」「仕事に行きたくない」「人に会いたくない」という人の割合がそれぞれ1割台を占め、コロナ禍による心身面への影響が大きかった人がいる事実を示す。

一方、そうした不安や健康面の不調といったマイナス面での変化だけでなく、コロナ禍で生活や家族関係の再編を行ったという形でのプラスの面での変化もあるとした人もいる事実が自由記述欄に見られる。心身両面での深刻な影響を受けた人とそうでもなかった人がいて、コロナ禍で被った被害の軽重の差が大きい事実を示している。

自由記述（年代の若い順に記載）

① マイナス方向での記述

- ・金銭的な不安が増えた。(20代・女性)
- ・コロナ関連のニュースを見るのが苦痛。一層メディアを見なくなった。
(30代・女性)
- ・自律神経の調子が悪く、PMS（月経前症候群）がひどくなった。(30代・女性)
- ・制限されているので逆にあちこち出かけたくなった。(30代・男性)
- ・コロナマウント（自粛マウント、影響マウント）に敏感になって、SNSを見るのがつらい時がある。(40代・女性)

- ・不足している中で接種が始まったワクチンは、変異ウイルスに有効なのか。1年たっても全く何も変わらない、進歩していないことに疑問と不安を感じる。
(40代・女性)
- ・マスクやスマホなどで姿勢が悪くなり、肩こりや頭痛などが増えた。
(40代・女性)
- ・SNSに頼るようになった気がする。視野が狭くなり心が沈み良くない。
(50代・女性)
- ・忙しすぎて疲れている。(50代・女性)
- ・悩みを話す機会が減り、一人で考えなくてはいけなくなった。(50代・女性)
- ・政府の対応が遅く苛立つ。(50代・女性)
- ・外出が億劫になった。(50代・女性)
- ・法事は家族すら集まれず、お坊さんと二人で済ませた。(50代・女性)
- ・自分が知らないままに感染していないかと気になる。(50代・女性)
- ・体調が悪くても市販の風邪薬を飲んだり解熱剤や痛み止めを利用したり、具合が悪くても我慢するようになって、他の病気の発見が遅れてしまった。
(50代・女性)
- ・周囲の人が怒りっぽく、テンションが高くなっている。(50代・女性)
- ・軽い鬱状態になり、心療内科に通うようになった。(50代・女性)
- ・何となく疲れが出てきている。(50代・男性)
- ・常では無いが漠然とした不安感に駆られることがある。(50代・男性)
- ・情報は得るようにしているが、気持ちがしんどい時にはコロナ禍関連の報道を見るのは控えている。(60代・女性)
- ・コロナへの恐怖から、コロナ感染者の犯人捜しのようにになっている。
(60代・女性)
- ・子ども達が帰省できなくなり、寂しい思いをしている。(70代以上・女性)
- ・食べることで心が慰められ、太りすぎてしまった。(70代以上・女性)

②プラス方向での記述

- ・コロナ休みで自分を見つめ直す時間が増え精神的に成長したと思う。
(10代・女性)
- ・無駄な人付き合いが無くなって楽になった。(30代・女性)
- ・今まで当たり前だった人と会えることのありがたさを感じた。(40代・女性)
- ・様々な嘘や洗脳に気が付いた。(40代・女性)
- ・イライラしなくなった。子どももピリピリしなくなった。(40代・女性)
- ・メディアがプロパガンダ(特定の思想・世論・意識・行動へ誘導する意図を持つ行為)をまき散らしていることに気付いた。(40代・女性)

③両面の記述

- ・気持ちが落ち込んだ時もあったが、今は前向きに気持ちを切り替えられた。
(40代・女性)
- ・リモートの仕事を探すようになった。スキルアップの勉強をするようになった。マスクや消毒液にお金を多く費やすようになった。(50代・男性)

(5) エソール広島の活動・提供サービスへの要望

【表 8 「現在の状況の中、エソール広島にどのようなサービスを望みますか】

項目	回答者数	割合
総数	496 人	
YouTube や Zoom 等を利用した講座・講演など	212 人	42.7%
テーマや対象を絞ったオンラインおしゃべり会の開催	88 人	17.7%
信頼できる相談機関一覧をHPに掲載	125 人	25.2%
信頼できる支援活動団体一覧をHPに掲載	109 人	22.0%
電話相談の継続	71 人	14.3%
メール等を利用した相談の実施	68 人	13.7%
Zoom や Skype などを利用したオンライン相談の実施	77 人	15.5%
図書の貸出期間の延長	62 人	12.5%
図書の貸出冊数を増やす	40 人	8.1%
図書データベースの公開	68 人	13.7%
特になし	136 人	27.4%

コロナ禍の中、一挙に進んだのは社会のIT化の流れと雇用や日常生活の変化であった。そうした変化の中、エソール広島の活動・提供サービスに対する要望も変化している。

対面での講座や講演への参加が難しい中、オンラインで参加可能な「YouTube や Zoom 等を利用した講座・講演」への要望が最も多く 42.7% である。次いで注目すべきなのは求められるサービスとして「図書」に関する要望よりも、「相談」に関する要望の方が強いという傾向が見られる点である。「信頼できる相談機関一覧をHPに記載」25.2%、「信頼できる支援活動団体をHPに記載」22.0%に対し、「図書の貸出期間の延長」は 12.5% である。こうした「相談」に対する要望への期待は、回答者の抱える日常生活課題は多様で、今すぐ相談の必要がある逼迫した生活問題を抱えている訳ではないが、コロナ禍による生活変化を多くの人が経験する中、いざという時に頼れる相談機関を知っておきたい、頼りたいという期待を示すものだと言えよう。

さらに相談・支援機関に関する単なる情報提供のみでなく、直接の相談に関わる「電話相談の継続」14.3%、「Zoom や Skype 等を利用したオンライン相談の実施」15.5%、「メール等を利用した相談の実施」13.7%の3つの項目がほぼ同じ割合を占め並んでいる事実は、いろいろな形の生活問題を抱え生活困難に陥ったときにすぐに相談できる場として、エソール広島の「相談事業」が周知され、期待されていると見ていいだろう。

コロナ禍以前は対面で行うのが当たり前であった、講座・講演のオンラインでの開催とともに、IT化が進み若い世代を中心に電子図書を利用する人口が普及していくこれから、「図書」に関わる事業をどう考えるか、「相談」に関わる事業や活動を対面や電話、オンラインという形でどのような形で展開していくかという新たな課題を示すものと言えよう。

2 「自認する性別」によるコロナ禍の影響

－男性と女性で影響はどう異なるか－

ここまで回答者全体の回答結果について述べてきた。次に、エソール広島の男女共同参画財団という点を踏まえ、ジェンダーの視点からコロナ禍が暮らしや仕事、さらには健康に影響しているのかを回答者の「自認する性」に焦点をおいて見ていく。回答者 540 人が「自認する性別」は「女性」399 人 (73.9%) 「男性」133 人 (24.6%) 「その他」「答えたくない」8 人 (1.5%) であった。そこで、ここでは統計的有意性を考慮し回答者数が多かった「女性」と「男性」の違いを中心に述べ、「その他」の性自認を持つ人についても見ていこう。

(1) 回答者年代

【表 7 「回答者の自認する性別と年代」】

年齢 区分	女性		男性		その他		答えたくない	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
総数	399 人		133 人		5 人		3 人	
10 代	30 人	7.5%	4 人	3.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
20 代	39 人	9.8%	12 人	9.0%	4 人	80.0%	0 人	0.0%
30 代	51 人	12.8%	20 人	15.0%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
40 代	101 人	25.3%	42 人	31.6%	1 人	20.0%	3 人	100%
50 代	90 人	22.6%	36 人	27.1%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
60 代	50 人	12.5%	14 人	10.5%	0 人	0.0%	0 人	0.0%
70 代以上	38 人	9.5%	5 人	3.8%	0 人	0.0%	0 人	0.0%

まず、回答者の年代である。回答者の年代を性別で見ると多いのは男女とも 40 代、50 代である。両年代を合わせた割合は女性 47.9%、男性 58.7%と約半数を占める。そして、残りの半数をその他の年代が占めるが男女とも 30 代、60 代がそれに続き、10 代、70 代の回答者は 1 割に満たない。「その他の性」の性自認を持つ回答者は 20 代が多い。

(2) 回答者の家族形態

【表 8 「家族形態」】

〈女性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	399 人	
ひとり暮らし	87 人	21.8%
夫婦(パートナー)のみ	90 人	22.6%
夫婦(パートナー)と子ども	117 人	29.3%
ひとり親と子ども	26 人	6.5%
三世代	23 人	5.8%
その他	56 人	14.0%

<男性>

区 分	回答者数	割 合
総数	133 人	
ひとり暮らし	19 人	14.3%
夫婦(パートナー)のみ	24 人	18.0%
夫婦(パートナー)と子ども	57 人	42.9%
ひとり親と子ども	3 人	2.3%
三世代	9 人	6.8%
その他	21 人	15.8%

回答者の家族形態を自認する性別で見た場合、男女で大きく異なる。女性では「ひとり暮らし」21.8%、「夫婦(パートナー)のみ」22.6%、「夫婦(パートナー)と子ども」29.3%といずれも2割台である。それに対し男性では「夫婦(パートナー)と子ども」が最も多く42.9%、次いで「夫婦(パートナー)のみ」18.0%、「ひとり暮らし」14.3%と続く。「ひとり親と子ども」が女性6.5%に対し男性では2.3%で、女性の方が多い。「三世代」は男女で大きな違いはない。

(3) 就業状況

【表9「就業状況」】

<女性>

区 分	回答者数	割 合
総数	399 人	
正社員	135 人	33.8%
契約・派遣社員・非常勤職員	43 人	10.8%
パート・アルバイト	48 人	12.0%
自営・フリーランス	47 人	11.8%
専業主婦	38 人	9.5%
学生	41 人	10.3%
無職	31 人	7.8%
その他	16 人	4.0%

<男性>

区 分	回答者数	割 合
総数	133 人	
正社員	91 人	68.4%
契約・派遣社員・非常勤職員	5 人	3.8%
パート・アルバイト	3 人	2.3%
自営・フリーランス	17 人	12.8%
専業主婦	0 人	0.0%
学生	6 人	4.5%
無職	9 人	6.8%
その他	2 人	1.5%

就業状況を性別で見た場合、性別による大きな違いは「正社員」割合が男性で高い事実である。男性 68.4%に対し、女性 33.8%で女性の2倍である。

「自営・フリーランス」「無職」の割合は、性別で大きな違いは認められないものの、「契約・派遣社員 非常勤職員」は女性 10.8%、男性 3.8%、「パート・アルバイト」女性 12.0%、男性 2.3%であり、男性より女性が占める割合が高い。また、「学生」割合も女性の方が男性より高い。

この就業形態の男女差と前述した家族形態の男女差を合わせ考えると、アンケート回答者に限って言えば、男性よりも女性回答者の方に多様な家族形態、就業状態にある人を多く含んでいる。

(4) 性別によるコロナ禍の影響

【表 10 「コロナ禍と働き方の変化」】

〈女性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	309 人	
在宅で仕事をするようになった	44 人	14.2%
出勤する日数が減った	46 人	14.9%
会社の都合で仕事を休んでいる	8 人	2.6%
時差出勤になった	16 人	5.2%
短時間勤務になった	13 人	4.2%
自己都合で仕事を休んでいる	2 人	0.6%
残業や休日出勤が増えた	19 人	6.1%
自己都合で仕事を辞めた	6 人	1.9%
解雇された（派遣切りを含む）	6 人	1.9%
特に変わりはない	201 人	65.0%

〈男性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	121 人	
在宅で仕事をするようになった	16 人	13.2%
出勤する日数が減った	22 人	18.2%
会社の都合で仕事を休んでいる	6 人	5.0%
時差出勤になった	8 人	6.6%
短時間勤務になった	7 人	5.8%
自己都合で仕事を休んでいる	1 人	0.8%
残業や休日出勤が増えた	14 人	11.6%
自己都合で仕事を辞めた	2 人	1.7%
解雇された（派遣切りを含む）	1 人	0.8%
特に変わりはない	73 人	60.3%

回答者の性別により雇用形態は大きく異なっていた。そうした雇用状況は、コロナ禍の働き方にどのような影響をもたらしただろうか。「働いている」と回答した女性 309 人、男性 121 人について見ていく。

「特に変わりはない」が男女とも最も多く、女性 65.0%、男性 60.3%である。次いで多いのは「出勤する日数が減った」男性 18.2%、女性 14.9%、「在宅で仕事をするようになった」男性 13.2%、女性 14.2%であり、性別の差異は小さい。

「残業や休日出勤が増えた」は男性 11.6%、女性 6.1%と男性割合が高い。性別では就業形態で大きな差が見られたが、コロナ禍がもたらした働き方の影響は本調査の回答者に限り大きな男女差は見られない。

(5) コロナ禍がもたらした収入への影響

【表 11 「ご自身の収入への影響はいかがですか」】

〈女性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	304 人	
なくなりそう・なくなった	12 人	3.9%
減りそう・減った	90 人	29.6%
変わらない	184 人	60.5%
増えた・増えそう	18 人	5.9%

〈男性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	125 人	
なくなりそう・なくなった	6 人	4.8%
減りそう・減った	49 人	39.2%
変わらない	63 人	50.4%
増えた・増えそう	7 人	5.6%

男女の性別で雇用形態は大きく異なっていたが、そうした雇用条件の差はコロナ禍による収入面での変化とどのように関わっているだろうか。ここでは回答があった女性 304 人、男性 125 人について見ていく。

収入がコロナ禍以前と「変わらない」割合は男性 50.4%、女性 60.5%で、女性の方が 10%ほど多い。しかし、男性回答者の 5 割、女性回答者の 4 割が何らかの影響を受けている事実はコロナ禍が与えた経済的な影響の大きさを示す。中でもマイナス面での影響を受けた人の割合が多く、深刻な影響を受けた「なくなりそう・なくなった」が男性 4.8%、女性 3.9%、さらに「減りそう・減った」が男性 39.2%、女性 29.6%である。一方、割合は少ないものの収入面で「増えた・増えそう」という人もいて、男性 5.6%、女性 5.9%である。

マイナスの影響を性別に着目してみると「減りそう・減った」割合は、女性より男性が10%ほど高く、一見すると男性より女性の方が収入面での影響が少ないのではないかと解釈されかねない。しかし、回答者の属性を見ると男性の方で正規雇用者割合が高く、女性では非正規雇用者割合が高かった。こうした性別による雇用形態の違いが男性の場合、コロナ禍による残業カットや勤務日・時間等、勤務形態の変更がマイナスの影響をもたらし、一方、非正規雇用割合が高かった女性では、男性とは異なる形での雇用や勤務形態の変化が生じ、このような男女差がもたらされたのかもしれない。

(6) コロナ禍が及ぼした生活や行動、暮らし方への影響

【表12「コロナ禍から1年が経過し、あなたの生活や行動に変化がありましたか」】

〈女性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	387人	
友達に会えなくなった	288人	74.4%
やりたいことができなくなった	235人	60.7%
運動不足になった	159人	41.1%
食事の支度や掃除など家事の負担が増えた	63人	16.3%
公共交通機関を利用しなくなった	93人	24.0%
学校が休みになり、子どもの世話が増えた	28人	7.2%
生活のリズムが不規則になった	60人	15.5%
子どもを叱ることが増えた	12人	3.1%
些細なことでパートナーと喧嘩をするようになった	24人	6.2%
パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった(悪化した)	4人	1.0%
特に変化したことはない	25人	6.5%

〈男性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	133人	
友達に会えなくなった	84人	63.2%
やりたいことができなくなった	67人	50.4%
運動不足になった	43人	32.3%
食事の支度や掃除など家事の負担が増えた	12人	9.0%
公共交通機関を利用しなくなった	33人	24.8%
学校が休みになり、子どもの世話が増えた	15人	11.3%
生活のリズムが不規則になった	14人	10.5%
子どもを叱ることが増えた	5人	3.8%
些細なことでパートナーと喧嘩をするようになった	10人	7.5%
パートナーからDV・ハラスメントを受けるようになった(悪化した)	3人	2.3%
特に変化したことはない	15人	11.3%

この設問への回答者数は女性 387 人、男性 133 人であった。まず、影響を受けた生活や行動の変化として設けられた選択肢の内、男女とも回答割合が最も高かったのは「友達に会えなくなった」「やりたいことができなくなった」の2つである。その割合は、女性の方が男性より多く「友達に会えなくなった」で女性 74.4%、男性 63.2%。「やりたいことができなくなった」で女性 60.7%、男性 50.4%であった。

この2つに続いて回答割合が高かったのは「運動不足になった」で女性 41.1%、男性 32.3%、次いで「交通機関を利用しなくなった」女性 24.0%、男性 24.8%、「食事の支度や掃除などの家事の負担が増えた」は女性 16.3%、男性 9.0%で顕著な男女差は見られない。

しかし、数値としては低い「些細なことでパートナーと喧嘩をするようになった」女性 6.2%、男性 7.5%。「パートナーから DV・ハラスメントを受けるようになった(悪化した)」が女性 1.0%、男性 2.3%あり、深刻な家族危機、生活危機に陥った人が回答者にも含まれている事実である。

ところで、コロナ禍が及ぼした生活や行動の変化における男女差は先に見た収入面の変化で見た男女差ほどは大きくない。この事実は、コロナ禍が性別を問わず、日常の生活や行動を大きく変えていった事実を示したものと言えよう。

(7) コロナ禍がもたらした心身両面の変化

【表 13 「コロナ禍から 1 年が経過し、あなたの心身に変化がありましたか」】

〈女性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	366 人	
気持ちが沈んでいる	123 人	33.6%
イライラしやすくなった	88 人	24.0%
新型コロナウイルスのニュースを見るのがこわい	65 人	17.8%
新型コロナウイルスのニュースを一日中見てしまう	61 人	16.7%
眠れなくなった・眠りが浅くなった	46 人	12.6%
仕事や勉強に集中できなくなった	26 人	7.1%
仕事に行きたくない	34 人	9.3%
人に会いたくない	57 人	15.6%
食欲がなくなった	11 人	3.0%
特に変化したことはない	133 人	36.3%

<男性>

区 分	回答者数	割 合
総数	125 人	
気持ちが沈んでいる	32 人	25.6%
イライラしやすくなった	35 人	28.0%
新型コロナウイルスのニュースを見るのがこわい	14 人	11.2%
新型コロナウイルスのニュースを一日中見てしまう	30 人	24.0%
眠れなくなった・眠りが浅くなった	12 人	9.6%
仕事や勉強に集中できなくなった	10 人	8.0%
仕事に行きたくない	18 人	14.4%
人に会いたくない	19 人	15.2%
食欲がなくなった	3 人	2.4%
特に変化したことはない	47 人	37.6%

コロナ禍がもたらした心身の変化においても、生活や行動で大きな男女差が見られなかったと同様、収入面への影響で見られたような性別による大きな違いは見られない。

「特に変化したことはない」が女性 36.3%，男性 37.6%である。変化した人で最も多いのは「気持ちが沈んでいる」で、女性 33.6%，男性 25.6%である。次いで多いのは、男女とも「新型コロナウイルスのニュースを見るのが怖い」「新型コロナウイルスのニュースを一日中見てしまう」という過剰なコロナウイルス報道に対する反応である。

しかし、無視できないのは、コロナ禍によるより強い心身ダメージを示す「人に会いたくない」が男女共にほぼ 15%を占め、さらに「仕事に行きたくない」が男性 14.4%，女性 9.3%，「眠れなくなった・眠りが浅くなった」が女性 12.6%，男性 9.6%という点である。「特に変化したことがない」人が男女共 3割台を占める一方、こうした形の心身両面で大きな変化を被った人たちが 1割台を占めている影響の多様性こそ、コロナ禍による被害として重視すべき点と言えよう。

(8) エソール広島の活動・提供サービスへの要望

【表 14「エソール広島にどのようなサービスを望みますか」】

〈女性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	364 人	
YouTube や Zoom 等を利用した講座・講演など	164 人	45.1%
テーマや対象を絞ったオンラインおしゃべり会の開催	72 人	19.8%
信頼できる相談機関一覧をHPに掲載	98 人	26.9%
信頼できる支援活動団体一覧をHPに掲載	86 人	23.6%
電話相談の継続	52 人	14.3%
メール等を利用した相談の実施	54 人	14.8%
Zoom や Skype などを利用したオンライン相談の実施	52 人	14.3%
図書の貸出期間の延長	52 人	14.3%
図書の貸出冊数を増やす	32 人	8.8%
図書データベースの公開	49 人	13.5%
特になし	92 人	25.3%

〈男性〉

区 分	回答者数	割 合
総数	125 人	
YouTube や Zoom 等を利用した講座・講演など	44 人	35.2%
テーマや対象を絞ったオンラインおしゃべり会の開催	15 人	12.0%
信頼できる相談機関一覧をHPに掲載	23 人	18.4%
信頼できる支援活動団体一覧をHPに掲載	21 人	16.8%
電話相談の継続	16 人	12.8%
メール等を利用した相談の実施	12 人	9.6%
Zoom や Skype などを利用したオンライン相談の実施	23 人	18.4%
図書の貸出期間の延長	8 人	6.4%
図書の貸出冊数を増やす	7 人	5.6%
図書データベースの公開	17 人	13.6%
特になし	45 人	36.0%

エソール広島の活動や提供サービスへの期待度は男女で異なる。要望が「特になし」は男性 36.0%、女性 25.3%で、男性の方が 10%ほど多い。これは裏返せば、男性より女性の方にエソール広島の活動・サービスに期待する人が多い事実を示す。

次に要望としてあげられた事業やサービスについて具体的に見ていくと、最も高い割合を示すのは「YouTube や Zoom 等を利用した講座・講演など」で、女性 45.1%、男性 35.2%で、ここでも女性の方が多い。同様の傾向は「信頼できる相談機関一覧を HP に掲載」「信頼できる支援活動団体を HP に掲載」でも見られ、男性に比べ、女性の方でエソール広島への期待が高い事実を指摘できる。

しかし、「電話相談の継続」「メールを利用した相談の実施」「Zoom や Skype などを利用したオンライン相談の実施」といった直接的な相談の実施への期待は 1 割前後に留まるものの、男女共ほぼ同割合を示す。この事実は、生活困難に陥った場合、電話やメール、Skype 等相談ツールは異なるものの直接相談できる場としてエソール広島が期待されている事実を示すものと言えよう。

また、図書に関しては「図書データベースの公開」が男女共 13%を占めるものの、他の「事業・サービス」に比べ、割合は低く、先に全体の分析においても述べたが、電子図書等に馴染んだ人達が増えるこれから、図書に関する事業をどのように展開していくかは一つの課題となるだろう。

ここまで統計的な観点から、男女の違いに焦点をおいて検討し、「その他」の性自認を持つ人の回答については見てこなかった。しかし、数値としてはあがってはいないものの「その他」の性自認を持つがゆえのコロナ禍での雇用や生活・行動面で困難やエソール広島への要望があったに違いない。

だが、こうした少数の人たちの声を汲みあげる形で、エソール広島の活動・サービスをどのように提供していくかという問題は、今回のアンケート結果に示された回答者の多様化、多元化傾向ともつながっている。

それは、人々の就業形態や働き方、家族形態、日常生活・行動の多様化がさらに進むだろう社会変化の中、今後エソール広島がどのような理念に立ち講演、講座を企画し、それを対面やオンライン等、どの方法により開催、提供するののかという課題である。それは相談支援活動においても同様で、ひとり一人が抱える生活問題が多様化する中、オンラインやメール、対面という方法のうち、どの方法が社会的に孤立し、生活困難に陥った人をエンパワーメントしうる社会資源になりうるかといった課題、それを担う相談員の人材確保の問題、さらにはいざという時の社会資源として、県内外の支援・相談活動団体との連携・提携に立った情報をどのような形で提供していくのかという、新しい課題とつながるものと言えるだろう。

おわりに

コロナ禍が働き方や収入、生活や行動、心身両面に与えた影響、さらにエソール広島
の事業活動・サービスに対する要望をアンケート回答者全体及び性別によって見てきた。

繰り返しになるので省略するが、結果は既に述べてきたようにコロナ禍が与えた影響
が回答者の年代、性別、さらに家族形態によって多様である事実であった。それは、
格差が拡大する日本社会でコロナ禍が及ぼした被害も一様でなく、その人が置かれた
社会条件により、働き方や収入面でのみならず、日常生活や行動のあり方、心身両面の
ダメージも多様化している現実を示していた。

それは、コロナ禍という社会全体が被った一大災厄による被害でさえ、ひとり一人が
置かれた境遇によって差があり、甚大な被害を受けた人の苦境は社会全体で共有されず、
社会的孤立がさらに深まりかねない状況を深化させたと言ってよいだろう。

社会全体のIT化の流れと共にひとり一人が生きる基盤のそうした方向への変化は、
エソール広島がどのような理念に立ちどのような事業・活動を行い、どのようなサー
ビスを提供していくかという課題にもつながっている。簡単なアンケートであったが、
今回の結果は、そうしたことを検討する際の一助となる事実を示すものと言えるだろう。

おわりに、アンケートに回答を寄せた方がコロナ禍で陥った「困り事」が多様で多
次元的事実を示す自由記述を「付表」として掲載します。大変な状況の中でアン
ケートに回答を寄せてくださった全ての回答者の方にお礼を申し上げます。

謝辞

報告書の作成に当たり、適切な助言と丁寧な指導をしてくださった当財団監事の春日キスヨさんに深く感謝します。データの作成に当たり、当財団評議員磯田朋子さんにご指導、ご協力いただきました。ここに感謝の意を表します。

アンケート調査にご協力いただいた多くの皆さまに感謝いたします。

付表

「自由記述」

- ・今年の春から大学生活がスタート。目指していた外国語系・国際系はコロナ禍で先が見えないため、諦めて全く違う学部に進学。コロナ禍の前のように自由な国際交流ができる時代が早く来てほしい。これからの受験生が私のような選択を迫られない時代が来ますように。(10代・女性)
- ・若者が出歩くからコロナが蔓延するという発言はやめてほしい。在宅ワークができないため外出している。感染した方への誹謗中傷はやめてほしい。(20代・女性)
- ・感染者増のニュースにストレス。若者達に感染予防対策を求めてほしい。
(20代・男性)
- ・給付金に所得制限があることが悲しい。中間層は払うだけ払って守られない。一律給付金にして欲しい。(30代・女性)
- ・外食できなくなり食事の用意や献立を考える負担が増えた。ストレスが溜まりやすくなった。(30代・女性)
- ・オンラインやオンデマンドに対応するための出費が増えた。(30代・女性)
- ・孤独を感じるが多くなった。(30代・女性)
- ・不安を煽るのをやめてほしい。事実を中立的に伝えるそれがメディアの仕事。
(30代・女性)
- ・同居家族との生活が煩わしくなった。(30代・女性)
- ・父親と自分の障害年金で暮らしている、お金など先のことが心配。(30代・女性)
- ・子どもが濃厚接触者に該当してPCR検査を受けることになり会社から差別を受けた。
(40代・女性)
- ・コロナの影響で求人が少なく、非正規雇用での仕事を余儀なくされている。
(40代・女性)
- ・子育てが不安。(40代・女性)
- ・新型コロナ関連でギスギスするようになった。意見が異なる人を責めるような発言や政府や自治体の粗探しばかりするようになった人もいる。(40代・女性)
- ・マスクをしない人がいる。(40代・女性)
- ・実家の両親に会えない。(40代・女性)
- ・収入が大幅に減少、支援が受けられず経済的困窮。(40代・男性)
- ・会社の都合もあるが、徹底した対策が必要。(40代・男性)
- ・家族の勤め先の飲み会が頻繁に行われ、立場上断れず感染が不安。(50代・女性)
- ・再就職を考えているが、外出に恐怖を感じ、就活に踏み出せない。(50代・女性)
- ・正しい情報とそうでない情報との見分けがつかない。(50代・女性)
- ・単身赴任している夫や、県外にいる子どもに会えない。(50代・女性)
- ・ワクチン接種について迷っている。自分は受けないつもりでいるが、差別を受けることがないか心配。(50代・女性)
- ・収入減少でこれからがとても不安。(50代・女性)
- ・具合が悪い時に医者が診てくれないことが一番不便。僻地で開業医が少ない地域では困ったこと。(50代・女性)

- ・仕事が営業のため、人に会う事が難しくなり、会社側も何も対処してくれない。(50代・女性)
- ・収入が減った。コロナに感染するのが怖くて、病院に行けなくなった。(50代・女性)
- ・県外の親族(特に高齢者)に直接会うのが憚られること。(50代・男性)
- ・コロナ対策がそれぞれ自治体任せ、情報開示などの基準が曖昧。(50代・男性)
- ・コロナ禍で人との距離を取ることに疲れ、心理的にも悪影響。家族にも何気ないことで当たってしまう。(50代・男性)
- ・介護が大変。施設が利用できないとお風呂にも入れない。(60代・女性)
- ・お客様の購買意欲が少なくなった。企業や営業の方たちに活気づいていただかないと困る。(60代・女性)
- ・旅行に行けない。(60代・女性)
- ・コロナが怖くて仕事を休みたいが休めない。(60代・女性)
- ・コロナ後にどんな困りごとが起こるか、それが不安。(60代・男性)
- ・生活パターンが固定化し、マンネリになってしまう。(70代以上・女性)
- ・広島県でも陽性者が増え、広島市に出掛けるのは正直怖い。(70代以上・女性)

「新型コロナウイルス感染症に罹患された方にお聞きします。
差し支えなければ、困ったこと変化したことなど」

- ・感染者急増でホテル療養(隔離)すらできなかった。自宅療養期間後も後遺症のような症状が続くも、職場で理解してもらえず出勤した。(40代・女性)
- ・嗅覚異常があった。罹患時はほとんど嗅覚がなくなった。(50代・女性)
- ・昨年夏に友人がコロナ感染して体重が12kg減、今も後遺症がある。日々の感染情報発表は人数だけ。これでは感染は止められないだろう。「私はコロナ感染しました」とカミングアウトできて体験情報を共有する社会にしないと、ありもしない噂などが行き交って社会は混乱するだけだ。(50代・男性)